

会 議 録

会議名 (付属機関等名)	第1回 川西市総合計画審議会		
事務局(担当課)	総合政策部政策創造課		
開催日時	令和3年10月28日(木) 午後6時から		
開催場所	川西市役所4階 庁議室		
出席者	委員	伊藤 嘉余子、上村 敏之、片山 優子、神谷 牧人、 渋谷 和正、中野 雅文、新川 達郎、松浦 龍基、 水野 優子、山本 利映	
	その他		
	事務局	越田市長、石田総合政策部長、船木総合政策部 副部長、野田政 策創造課長 他課員2名	
傍聴の可否	可	傍聴者数	5名
傍聴不可・一部不可の 場合は、その理由			
会議次第	次ページに記載		
会議結果	別紙会議計画のとおり		

令和3年度第1回川西市総合計画審議会 会議次第

日時:令和3年10月28日(木曜日)

午後6時~

場所:川西市役所4階 庁議室

1. 開会
2. 委嘱状交付
3. 議題
 - (1) 会長及び副会長の選任について
 - (2) 第6次総合計画の策定について(諮問)
 - (3) 市長挨拶
 - (4) 委員自己紹介
 - (5) 第6次総合計画の策定スケジュール(案)について 【資料1,2,3】
 - (6) その他
4. 閉会

審 議 経 過

1 開 会

(事務局)

お時間がまいりましたので、「令和3年度 第1回 川西市総合計画審議会」を開会いたします。みなさまにおかれましては、本日はご多忙中お集まりいただき、誠にありがとうございます。私は、本日の進行を務めます、川西市 総合政策部 政策創造課の野田でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

議事に先立ちまして、本日の会議及び会議録についてご説明します。本日の会議は、川西市総合計画審議会規則及び川西市総合計画審議会の Web 会議運用に係る要領に基づき、この会場での参加及びリモートでの参加を併用する形で実施いたします。本日は対面8名、リモート2名、計10名全員にご出席いただいております。なお、事務局と致しましては、市長の越田のほか、職員5名が出席しております。

また、当審議会は川西市参画と協働のまちづくり推進条例他、関係要領に基づき公開することとしており、傍聴できることとしております。新型コロナウイルス感染症対策の観点から、本日の審議会の様子は別室でビデオカメラを通じて傍聴できるようになっています。

会議録については、各委員のお名前を伏せた形で発言要旨を事務局でまとめ、みなさまにご確認いただいたのち、市ホームページその他で公開いたします。

会議録作成のため、本審議会の様子を録画・録音させていただきますので、あらかじめご了承ください。

2 委 嘱 状 交 付

(事務局)

それでは、次第 2. 委嘱状交付を行います。

お手元に配布の委員名簿の順に、市長より委嘱状をお渡しします。ご自身の順番となりましたら自席にてご起立ください。

また、リモートでの参加のお2人につきましては、読み上げのみ行いますので、そのままの姿勢でお聞きください。委嘱状については、後日事務局より郵送いたします。では、伊藤様より、よろしくお願い致します。

委嘱状交付

3 議 題

(1) 会長及び副会長の選任について

(事務局)

本会議については「川西市総合計画審議会規則 第5条」に基づき、会長、副会長を置くこととしています。

同規則第5条第2項の規定に基づき、会長及び副会長は、委員の互選によって定めることとなっておりますが、ご推薦はありますでしょうか。

意思確認

(事務局)

なければ、事務局より、会長に新川 達郎委員、副会長に上村 敏之委員を推薦したいと思います。ご賛同いただける委員の方は拍手をお願いします。

拍手

(事務局)

ありがとうございます。それでは、会長、副会長のお二人はお席の移動をお願いします。また、席の移動に伴い松浦委員、水野委員につきましても、左側へお席の移動をお願いします。

(2)第6次総合計画の策定について

(事務局)

それでは、議事の(2)第6次総合計画の策定について「川西市総合計画の策定に関する条例 第4条」に基づき市長の越田より審議会に対し、諮問させていただきます。

諮問

(3) 市長挨拶

(事務局)

それでは市長の越田よりご挨拶を申し上げます。

(市長)

みなさん、こんばんは。改めまして川西市長の越田謙治郎でございます。この度は川西市総合計画審議会の委員として委嘱をさせていただきましたが、快くお引き受けをいただき、川西市に力を貸そうというお言葉をいただいたことを心から心強く、また感謝を申し上げます。本当にありがとうございます。また、それぞれの各委員のみなさまにおかれましては、市外にお住まいのみなさんには、いろいろな審議会等で川西市に対して、既にご協力をいただいておりますし、市内の方には、いろいろな活動で我々とも協働していただいているみなさんにお揃いをいただきました。川西市の総合計画の一つの大きな作り方として、今回しっかりと私自身が意識したいなと思ったのは、まず、やはり諮問機関として今までどちらかという審議会という事務局と審議会のメンバーが議論をするということになりますが、審議会は、市長の諮問機関ということですから、事務的には市長の補助機関である行政側職員側が、事務を運営するということはありませんが、やはり私がしっかりと中心に入ってみなさん方にこういう計画に対してご意見をいただきたいという、しっかりとしたその主の部分というものを持たなければいけないだろうということを、まず一つ意識をいたしました。そういった意味で今日もいろいろしっかりと議論をさせていただきたいなというふうに思っています。また特にこれから総合計画を作る上では専門家のみなさんの専門的な見地に基づいた議論、一方で我々はまさに川西市の当事者、主人公である住民のみなさんとの対話、ディスカッションとい

うのもしっかりとしていきたいというふうに思っています。審議会の中で、公募の方、各種団体の方とのディスカッションという方法も、様々な審議会ではあり得るお話だと思うのですが、やはり専門家のみなさんとのディスカッション、市民のみなさんとの対話、そして本当に実際に関係者のみなさんとの協働をどうしていくのかということは、それぞれのパーツでしっかりと行って時間をかけて作っていきなというふうに思っています。また今まで総合計画というと、どこからどこまで書くかがわからないというような問題もありましたが、今回期間の方も市長任期、市議会議員の任期ともあわせていくということで、まさに民意で選ばれた市長が計画を作り、将来のビジョンを示しながら具体的な施策に落とし込んでいく、こういった民主主義のプロセス、民主主義のサイクルというものもしっかり回していくそんな一つのきっかけにしていきたいというのが、今回の総合計画にける私自身の思いでございます。最初ですので、少しお時間をいただきまして、私が今どんなことを考えているのか、なぜ市長になったのかということから、少しだけお話をさせていただきたいと思えます。

私自身、市長に就任してちょうど明日で4年目が始まるということで、今日で丸3年になります。私が市長に就任した一つの大きなきっかけはですね、やはりこの住宅都市川西市への危機感です。川西市は4、50年前から住宅都市として発展してきました。まちづくりの方法は川西市モデルという言い方をされ、まさに人口が増えていく住宅都市の一つのモデルとして川西市があったというふうに思っています。ただ、住宅都市というのは、やはり人口増加の社会のモデル、増えていく人口が都心の中では暮らせないので、より広く、遠いところにまちをつくっていた。こういったプロセスがある中で、人口が減っていくというと、1回郊外に広がったまちというのは、必然的に縮小していかざるを得ない。ただ人生をかけてこのまちで暮らして、仕事をして家を買って暮らしている我々が、社会の宿命だからといって、まちの縮減をただただ何もせず手をこまねているわけにはいきませんので、私としては、やはり住宅都市としての川西市のこの立ち位置、魅力というものをしっかりと大切にしていながら、一方で、今まで住宅都市ベッドタウンでしかなかったこのまちに、やはり新たな魅力や価値というものを付け加えることによって、住宅都市合戦ではないんですけど、住宅都市の中でも川西市はこういう住宅都市なんだと、住みやすい、利便性がある、自然がある、さらにこういった価値があるんだという、こういうことが実現できるんだということがしっかりと外にも市民の中にも共有できるようなそんなまちを作っていかなければいけないと思っています。ただ、やはりコロナ禍という中で、住宅都市の価値というものも大阪に行かなくてもいい、こういった働き方がある種一つの常識になってきた中で、いわば今新しい都市像を打ち出す、我々にとっては絶好のチャンスでもあると思っています。こういった中で、川西市がこれから住宅都市として生きていく、これは大きく変わることはないと思っています。ただ、その中でこういった価値を付け加えていくのか、こういった点に対して、ぜひみなさんからのご意見を頂戴したいなと思っています。

また、市長として大切にしていることについても少し申し上げたいと思っています。やはりまちとして我々が大切にしたいというものは、一つ目は多様性という考え方で。市長就任直後ですので、令和元年度に川西市民会議という、その時は総合戦略をつくるときに、無作為の市民の方、160人以上の方にお集まりいただきましたが、本当

に多様な人材が川西市にはいらっしゃるというのを私はすごく実感をしましたし、すごく自信を持ちました。こういった多様な人材、そして多様な背景を持っている人たちがそれぞれ違う形で幸せになれる、一つの幸せの形ではなくて、多様な幸せが形になるんだといったことを実現するまちでありたいなと思っています。そのためには、包摂性、誰かを排除するのではなくて、しっかりと包摂して行って、社会の中で受け止めていく、誰も取り残さないとか、排除しないとそういった言葉がいろいろありますが、しっかりと包摂していく社会でありたいというふうに思っています。さらにまちとして大切なのは、その上で持続可能性をいかに高めていくのか。今、財政健全化、実は令和元年度から、財政健全化の集中期間という形で、3年間本当に厳しい内容での財政健全化にも取り組んでいます。ただその中にも何を守るべきなのか、こういったことを大切にするその価値観の中で、先程申し上げた、多様性や包摂性というものはできるだけ大切にしていきたい。ただ厳しい財政状況の中ですので、言うほど簡単ではなく、その大切なものと持続可能性を両立させるまちづくりというのは本当に何なのかというのは、我々にとっても永遠の課題なのかもしれませんが、一方でやはり大切なものを守り続けるための持続可能性というものが、我々の中で大切にしていきたい価値観だというふうに思っています。また川西市は本当に人材が多様でありますし、市民力というのが高いということがありますので、全てを行政が行うのではなく、市民のみなさん、そして多くの民間事業者のみなさんへこういった市ができないことがたくさんあるんだと、できないことがたくさんあるがゆえに、みなさんにいろんな助けをお願いしながら一つのまちをつくっていく、みんなで幸せになっていく、そんな社会を作っていきたいなということを、抽象的なキーワードとしては常に思っております。これをより市民のみなさんに伝わる言葉で、より市民のみなさんがイメージしやすい言葉でそして具体的な方向性でというのを総合計画の中でお示しすることができれば本当にありがたいなと思っていますし、計画としては8年間を目途にという計画ですが、全職員がこの総合計画を作って、作り終わった後、8年間この冊子をずっと持ち続けて、これを俺たちは目指していくんだというような、そういった熱のこもったものが、みなさんと一緒に作り上げることができたということを思っております。通常の上の市長の開会の挨拶に比べれば非常に長い選挙演説のようなお話をしてしまいましたが、これからみなさんとしっかりと議論をさせていただくスタートということで、その思いをお伝えさせていただきました。どうかよろしくお願ひいたします。

(事務局)

続きまして委員のみなさまに自己紹介をお願いしたいと思います。おひとりずつ、3分程度で自己紹介をお願いできたらと思いますが、普段どのようなことをなさっているのかということや、今回の総合計画策定に向けた思いなどをお持ちでしたら、ご自由におっしゃっていただければと思います。

なお、新型コロナウイルス感染症対策のため、座ったまままでのご発言をお願いします。

また、ここからは新川会長に進行をお願いしたいと思います。それでは、新川会長、よろしくお願ひいたします。

(4) 委員自己紹介

(会長)

それでは進行させていただきます。まずは委員のみなさま方の自己紹介ということでございます。恐縮ですが、私から始めさせていただければと思います。名簿にもありますように、今年の3月までは同志社大学で教育にあたっておりました。今後は、大学の研究機関での研究の継続と、それから、社会的にはいくつかの公益法人の代表等も務めていますので、しばらくこうした教育や研究の分野に関わりたいと思っております。

専門分野は行政学、地方自治論、公共政策論といったような、どちらかという政治に近い分野なのですが、本市では、お手元に「かわにし幸せものがたり」という冊子がありますけれども、この第5次の計画の策定に関わらせていただいて、またその後から本市の行革等でのお手伝いを少しさせていただいております。総合計画につきましては、改めて、市長さんの先程お話にありましたように、これからの川西市のために何ができるのかというのをしっかり考えていきたいというふうに思っています。とりわけ前の計画のときからそうだったのですが、本市の場合にはやはり2000年代に入って人口の停滞、そして従来型の住宅都市が持っております、ある意味では様々な負の側面というのが顕在化してくるところを、改めてしっかりと市民の暮らし方、その基盤のところから作り直さないといけないというようなところが課題としては大きく出てきました。また、あわせてそうした市全体の活力というのをどういうふうに引き出していくのかというのも同時に課題だったかと思っております。今改めてこれからの8年というのをどう構想するか、これからみなさまと議論をしながらと思っておりますが、基本的には、やはりある種の定常社会といえますか、外形的には成長も多少の衰退もありつつ、しかしあまり変わらない、ただし中身をどういうふうに豊かにしていくのかというのが大きな課題かなと思っております。その点でも本市、様々な可能性というのを秘めておりますし、先程、市長さんからありましたけれども、このコロナ禍で明らかになってきたニューノーマルといわれるような事態が実はこうした定常的な社会にとって、非常に大きなアドバンテージといえますか、メリットとして働く可能性がとても高いというふうに思っています。これまでの川西市の市民のみなさま方、定住人口という言い方をしておりますけれども、この住宅都市が実は抱えてこられた非常に豊かな市民のみなさま方というので資源と言うと叱られるんですが、こういう本当に多様な人材というのをどういうふうに、この50平方キロぐらいのコンパクトなまちでどんなふうに活かしていくのか。これがしっかりと出来上がっていきますとこの8年間でそこから先の、例えば2050年問題とか、あるいは2100年問題とかといわれておりますが、そういうところに向けての、いってみれば、持続可能なまちづくりもできるのではないかと。そんなことも思いながら今、市長さんのお話を聞いておりました。みなさま方と一緒にこの総合計画を良いものに仕立て上げていければというふうに思っております。よろしくお願いたします。それでは、副会長より順番に自己紹介をお願いします。

(上村委員)

関西学院大学の上村でございます。私は専門が地方財政学でして、財政なので、基本

的にお金のお話をするのが専門です。研究の方は歳出政策というよりは、歳入政策の租税の方が得意でして、なので論文とかは基本的に税金です。あと社会保障もやります。ただ、行政の仕事は、ほとんどの場合が行政改革です。行政改革の仕事は国もやっていますし、兵庫県もやっています。周辺自治体はほとんど関わっています。総合計画については、多分初めてじゃないかなと思います。勉強させていただきたいと思っています。川西市については先程市長からあった、かわにし創生総合戦略推進会議の委員だったということと、川西市行財政改革審議会の会長なので、先程非常に厳しい行革を強いられているというのは、実は私がおその責任者かもしれません。

実は、行政改革と総合計画は非常に繋がっています。私が思うに、やはり市長のお話を聞いていると、ビジョンをどうやって市民と共有するかという、共有できるビジョンをどう持つのかというところがとても大事だし、先程言われた多様性と包摂性とかがSDGsとか持続可能性っていう、いわゆる価値ですよね。その価値をどうやって共有して提示できるかっていうことと、この話はグローバル化に繋がっていると思うんですよね。何か国際化っていうとちょっと遠いかもしれないけれど、でも国際的な価値そこにあるんですよね。その国際的な価値を川西市からいかに発信できるかっていうところが、例えばグローバル企業とかに来ていただくとかですね、そういうところも見えるんじゃないかなと思います。ローカルなんだけれども、グローバルな視点も考えていくところが重要なのかなと思って、お話を聞きました。とにかく価値を提示する、ビジョンを共有するこれが大事かなと思います。以上です。

(会長)

それでは、各委員から、委員名簿順でお話をいただければというふうに思います。オンラインでご参加の伊藤委員、一言いただけますでしょうか。

(伊藤委員)

みなさん初めまして。大阪府立大学の伊藤と申します。本日はリモートでの参加で大変失礼しました。4月からイギリスのスコットランドのグラスゴー大学に来ております。なので、今日はイギリスから参加しております。

私の専門は社会福祉学で、その中でも特に子どもと家族の福祉、子ども家庭福祉を専門にしています。子ども家庭福祉の中でも特に力を入れて研究、社会的な活動している分野が児童虐待、1人親家庭とか貧困とかトップに、支援が必要な親子について研究をしております。大阪府立大学所属なので大阪府、大阪市、堺市、神戸市、尼崎市などの社会福祉を中心とした地域福祉計画ですとか総合計画等の策定に関わっておりますが、川西市につきましては今回初めてお声がけいただきましたので、川西市のこともしっかり勉強させていただきながら、お役に立てるように努めてまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

先程の市長のお話の中でも、その多様性と包摂ですとか当事者の声をしっかり聞いて計画に反映をとという言葉いただきましたが、市民の声といったときにやっぱり市民の中でも、声の大きい人と声の小さい人とか、声が出にくい人とか様々な立場の方がいらっしゃると思うので、特に今回のコロナ禍でも、みんなに平等にしんどい状況ではな

くて、やはり普段からしんどい状況にあった人が、よりしんどくなったっていうようなことがあったと思います。なので、そんなことも踏まえながらですね、いろんな立場の人の声も大事にしながら計画策定を進めていけたらと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

(会長)

どうもありがとうございました。引き続きまして、片山委員お願いします。

(片山委員)

マノカルダ株式会社の片山と申します。よろしくお願いいたします。私は川西市に嫁いできまして、今年で17年になるんですけども、その中で自分も結婚出産を経験しまして、辛いこともあったということで、あの産前産後のケアができる託児所付きのマタニティサロンを立ち上げて今年で12年目になります。現在は保育園も運営しております。自分のちょっと性質と申しますか、何か困ったよっていう声があると、それを解決しようとすぐ動いてしまって、突発的に手を出してしまうというので、気づけば今は、昼間はだいたい赤ちゃんを抱いて、産前産後のお母さんの施術をしてという日常を送っております。そして週末はだいたい畑の方におりまして、川西市の黒川という里山地区で素敵なおところがあるんですけども、日本一の里山と言われたような黒川地区なんですけれども、その畑で前回、この総合計画の審議会に参加した時も課題の一つに、川西市の観光産業の少なさと人を呼び込めるものがないというものがあったんですけども、それなら、この黒川で何かやってみようということで、また突発的に昨年からは観光農園を立ち上げてしましまして、主人をこき使ってブルーベリーを600本ほど植えまして、がんばっているところです。

私も本当、年を重ねるたびに川西市というまちがどんどん好きになっていって、このまちで人生を楽しみきりたいと思っているんですね。そのためにも、自分も一市民として、そしてこの子育て世代に触れる機会がとても多いので、そういった声を自分を通して、この審議会に活かしていけたらなと思っております。市長の熱いお話を聞かせていただいて、この場にいられたことを、本当に光栄に思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

(会長)

ありがとうございました。片山委員には本当に川西市民としていきいきと暮らしておられる様子をご紹介いただきました。みんなにとってそれが一つ大きな目標になるといいなと思いながら話を聞いていました。それでは神谷委員からお願いできますでしょうか。

(神谷委員)

みなさんこんばんは。川西市で福祉事業をやっていますアソシアの神谷というものです。うちの専門は福祉の中でも障害福祉になっています。もともと沖縄で福祉事業をやっていましたが、縁があってですね、去年から単身赴任で、沖縄に妻と子どもと母親を

置いて川西市に来ております。これまでの経験といいますと、沖縄では2市町村の総合計画に携わる機会がありました。

また、私は以前にデンマークに留学していたことがありまして、今市長がおっしゃっていた多様性と、持続可能性、ご存知の方は多いと思うんですけど、北欧とかっていうのは高福祉っていう、ただ高福祉の分、高負担で、やはりそれを税金から賄っているっていう。やはり何かというと、先程経済の話もされていたんですけども、多分、夢だけじゃそういう難しい部分がある中で、どうやってオリジナリティーを出しながら、実現させていくのかということですね。

デンマークなどを見ていく中で、びっくりしたのが選挙の投票率が8割を超えていることです。ですので、確かに高負担かもしれないけども、8割以上の方が選挙に毎回投票して、今の制度がずっと持続されているということは、それは一つ支持されていると思います。なので、今市長からお話がありました、民主主義、やっぱり一人ひとりの意見を聞いて、多様性とか、市長の想いというか、そういったものが具現化していけるようなお手伝いが、障害福祉という立場からできればと思います。やはり僕の仕事の特性上、マイノリティーの方が多いいんです。障害者であったりLGBTとかで鬱になったりとか、やっぱりそういう方々をたくさん見てきて支援をしながら今一緒に過ごしていますので、そういった部分での意見とか、協力とかっていうことができればなと思っております。長いお付き合いになると思うんですけども、よろしく願いいたします。

(会長)

ありがとうございました。先程、事例のお話をいただきましたが、令和6年3月末までお付き合いいただくということですので、よろしく願いします。

本当に北欧諸国の福祉は1人ひとりの市民の自主性、自律性みたいなものが基盤にあっている福祉制度というのが充実しているのかなというふうに思いながらいつも拝見させていただいております。川西市でどこまでそれが実現できるかというのも、これもチャレンジかなと思っております。よろしく願いいたします。それでは引き続きまして、渋谷委員からよろしく願いします。

(渋谷委員)

初めまして、株式会社HSC COLLAGENの渋谷と申します。私はですね、主に美容業の方に携わっておりまして、化粧品の製造であったり、サプリメントについての製造に携わらせていただいております。また、現在はヨーロッパの方にも製品の方を動かさせていただいております。これもひとえに、みなさまとのご縁があるからこそ、こういった取り組みもさせていただいているということも考えながら、川西市ではですね、美容室を経営しております。

こちらの方は美容業生活協同組合という組合事業がありまして、そちらの方の兵庫県の美容の常務理事もさせていただきながら、今後のですね、美容業界のあり方、また小さい子どもさんからですね、美容師さんたちはどういうふうに仕事をしているのかとか、どういうふうになればいいのか。そういった取り組みっていうこともさせていただくことで、何ていうんでしょう、夢をつくるような取り組みをさせていただこうと、

今取り組ませていただいております。

また地域を盛り上げる活動というのもさせていただいております、こちらは地域のお店のみなさんと、ふるさと応援バル巡りという、こちらは川西市の情報サイト、また情報誌になるんですけれども、独自に私達で活動することによってみなさまのお店に活気をつける、また売上に貢献するような活動取り組みというのを、今回させていただいています。こういった川西市が盛り上がる取り組みを私達も勉強させていただきながら、この総合計画審議会を楽しませていただきたいと思っておりますので、この今後ともよろしく願いいたします。

(会長)

はい、ありがとうございました。よろしく願いいたします。美容というのは本当に1人ひとりがそれぞれの個性、生き方というのをどんどん広げていく、そしてそれぞれが元気になっていく、そんな世界だというふうにも聞いております。僕がいうと嘘くさいといわれるかもしれませんが、おそらく共感していただける方もたくさんいらっしゃるのではないかと思います。そうした観点からもぜひこの計画でもしっかりご意見をいただければと思います。よろしく願いいたします。それでは、引き続きまして中野委員よろしく願いします。

(中野委員)

能勢電鉄の中野と申します。どうぞよろしく願いいたします。私は今年の2月に、能勢電鉄の社長に就任しました。それ以前は阪急電鉄で鉄道の担当をしておりました。まだ就任して1年も経っていないですけれども、能勢電といいますと、まさしく川西市とともに発展してきた鉄道会社でございます。かつては沿線に優良な住宅地がどんどんでき、弊社の方も輸送力がどんどん伸びておったというような、そういう時代がございました。ただ、現状をみると、やはりその住宅地が老朽化を迎えて、だんだん少子高齢化が進んでいるというような状況になってきておりました、乗降客の方もだんだん減ってきておると、まさしく今の市の勢いが、当社の事業成績に反映しているというような状況でございます。私もかつてから思っておったことを今日冒頭に市長が述べられていましたが、全く同感でございます。いかに今後この住宅都市としての川西市をどう再生していくかということが一つ大きなポイントなのだろうと思っております。その中で私も微力ながら尽力させていただきたいと思っております。市なので当然市民のみなさんのご意見を聞いて、それを反映させるということも当然必要だと思いますが、やはり外部というか、成功事例を勉強する必要があるというふうに思います。この少子高齢化あるいは人口減少が進んでいる中でも、人口を増やしている市というのはあります。そこで、成功事例をそのまま持ってくるのではなく、その背景をしっかりと勉強をして、そういう考え方をいかに導入していくかということが大事なことなのかなというふうに思います。ですので、そういう成功事例とか、あるいは今、転居された方がどういう価値観で住まわれるところを選ばれたのかとかいうようなことを今住んでおられる方じゃなくて、どこかに転居された方が何を基準にその都市を選ばれたかというようなところをしっかりと勉強して、そこを市の中に反映をさせていくというようなアプローチも必要じゃない

かなというふうに、常々思っています。微力ながら尽力できたらと思いますので、また弊社の発展にも当然リンクする話ですので、しっかりがんばりたいと思います。

(会長)

ありがとうございました。能勢電鉄さんはそうですね。川西市と協力しながらしっかりとタッグを組んでいかないといけない、そういうところだろうと思います。改めてこれからの持続可能な地域づくりの中でこうした基盤的な公共交通そして、それに伴います様々なサービス展開、おそらくこれからのまちづくりには、重要なポイントにもなってくるように思っております。よろしく願いいたします。それでは、松浦委員お願いします。

(松浦委員)

みなさん初めまして、キートンコンサルティングの松浦と申します。私は ICT が主な専門でございまして、元々は SE、プログラマーから経験を積んで今、コンサルティングという業務を担当しております。川西市様とも長年ご縁がありまして、当時は 2002 年ぐらいですね 20 年ぐらい前に総合計画の策定の業務のご支援とあわせて、行政評価システムの構築というのを担当いたしましたですね。そのときがもう 20 年前ですね、その頃からの付き合いでございます。

私の方は国の仕事とか、他自治体の自治体 DX とかですね、GIGA スクール構想もずっと今ご支援しておりますので、そういう経験からいろいろ意見を申し上げられればと思います。で、みなさんもお承知だと思いますけども、10 年後の ICT はもう、ほとんど想像できないくらい発展しましてですね。今で言うと 95 年の Windows 95 の発売とかですね、2007 年の iPhone の発売とか、その前からすると劇的にみなさん個人の環境とか、あるいは小中学校の生徒の関係はがらっと変わっています。ただ正直、行政の中は、ほとんど変わってないんですね。95 年にやっていることと、ほぼ変わらないです。私が知っている限りはですね。川西市さんは違うかもしれないです。ですので、その行政の中の事務と、それから市民がどれだけ IT を使って便利になるかという点も、10 年後の総合計画っていうのは非常に想像が難しいんですけども、できる限りみなさまのご意見とかですね、最新の情報を基に想いとかを盛り込められたらと思って、今日は参加させていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

(会長)

どうもありがとうございました。川西市は本当にこの 30 年ぐらいの間、全国にも先駆けての予算管理システム等々またそれに連動するかたちでの評価システム等を積極的に取り入れられました。さて、それがどうなっているのか。また改めて議論をしなければいけないかなと思っています。松浦様にはいろいろとまたお知恵をいただかなければならないかなと思っています。よろしく願いいたします。それでは水野委員、よろしく願いいたします。

(水野委員)

みなさん、こんばんは。武庫川女子大学の水野と申します。私は生活環境学科というところにいるんですけれども、専門は都市計画、まちづくりといったようなことを専門としております。その中でも主に、計画的に作られた住宅地。ニュータウンや郊外住宅地、団地といったところを専門に研究している者になります。川西市さんと、ということでいきますと今現在はちょうど都市計画審議会の委員をさせていただいているというところなんです。そういったことで、今回、総合計画に関わらせていただくことになったんですけれども、先程から出ております住宅都市ですね、あの川西市さんは本当に戦後たくさんニュータウンを作られまして、今この先進的にふるさと団地ということで、団地再生、ニュータウン再生の取り組みを進めておられるところなんですけれども、本当にそういう意味でいいますと、今の人口減少そして高齢化ということでやはり、これまで通りではない状況が起きているということで、なんていんでしょうか、あと、様々なその知恵を絞りながらですね、この川西市での川西市さん元々その北部の非常に自然が豊かなエリアから南部まで非常に多様なエリアをもっておられるわけなんですけれども、そういった多様なエリア、地域みたいなものを活かしながら川西市ならではの付加価値を付けながら、この住宅都市川西市というものを再生していくといたしますか、より魅力的な暮らしみたいなものがイメージできるように、それを共有できるような総合計画にしていきたいなというふうに思っております。ちょっと私自身勉強しながら関わらせていただきたいと思っておりますので、みなさま、どうぞよろしく願いいたします。

(会長)

はい、ありがとうございました。水野委員には本市が直面しております一番大きな課題の一つかもしれません、オールドタウンをどうするのかという、まさにそのあたりのところでいろいろ知恵をいただけたらと思っておりますが、同時に昔から発展をした既存の市街地もたくさん抱えております。こちらもがんばっていただきたいと思っております。よろしく願いします。それでは山本委員よろしく願いします。

(山本委員)

みなさま、こんばんは。ともに経営研究所の代表をしております山本と申します。本日はリモートで失礼いたします。中1と小4の息子がおりまして、その関係で自宅事務所から入らせていただいております。普段は何をさせていただいているかといいますと、中小企業診断士として活動しておりまして、ダイバーシティ経営ですとか、ワークライフバランス、SDGs っていうのを支援させていただいております。今ですね、SDGs の関係で、例えば奈良県の香芝市とかですね、同じような郊外っていうところで、郊外のあり方っていうのを地域の人を巻き込みながらどういう働き方とか、暮らし方をしていったらいいかっていうふうなところを考えながらですね、地元の障害者施設を起点としてチームで入らせていただいて、いろんな取り組みさせていただいたりですとか神戸市のそういったイノベーションですね、ESG とか SDGs を活用したイノベーション創出事業っていうのに入らせていただいたりとかしております。

川西市の方では産業ビジョン推進委員会地域経済対策推進部会の委員もさせていた

だいております、そうですねちょっと最近はまだ空き店舗がだいぶ少なくなってきたということなんですけれども、あの各地域ですね市内の商店街や、そういったところの活性化っていうので新規出店の店舗の審査とかもさせていただいております。で、10年前ですね。ちょうど長男が生まれた頃に子育てサークルを立ち上げたりした経験もありまして、その辺から地元の仕事の関係でいうと産業とか、あの商業の方との繋がりとか、起業家の方との繋がりもあるんですけれども、子育ての支援の観点からですね、NPOの方との繋がりも結構あるので、そういった市民の方の声ですとか、あとは子育ての当事者として、市民代表として意見を反映させていけたらいいかなというふうに思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

(会長)

ありがとうございました。今のお話で、本当に地域の産業や経済というのをどうしていくのか、住宅都市とはいいつつ住宅都市を支える経済というの、どういう経済をこれから考えていくのか、本当に大きな課題かなというふうに思っております。私達がこのまちのなかで、どんなふうにより良く生きていけるのかというときに、単に住環境だけの話ではなくて、むしろ生活経済的な側面というのを、どこまで充実させていけるかということが、豊かさを実感できるかどうかということと大きく関わるような気がしております。山本委員にはそのあたりも、ぜひアドバイスをいただければと思っております。よろしくお願いいたします。

それでは、各委員から自己紹介をいただきました。どういう委員がいらっしゃるのかということをお互いに理解できたのではないかと思います。本日は1回目ということもございます。しかも今日は市長さんにずっとご参加をいただいております。

これから計画の中身は事務局のみなさん方ともご相談しながら進めていければと思っておりますけれど、まずは最初に私達として何をどんなふうと考えていったらいいのか。少し最初に市長さんからもございましたが、大局的な観点を持って進めていかれようとしておられます。この辺り、私達が考えているところで意見交換をし、また市長様からもいろいろサジェスション(提案)をいただきながら、今後の議論の糧にしていかなければと思っております。最初に、市長さんからございましたご挨拶、基本的な価値観やあるいは方針、そして、それぞれのみなさん方の自己紹介もいただいて、それぞれにこのまちをいいまちにしたいという想いが伝わってきたところがたくさんあったかと思えます。この辺り、ぜひここはこう思いますといったようなこともいただければというふうに思っております。せっかく市長さんも来られていますので、市長さんにもご質問などありましたら、聞いていただければと思えます。どなたでも結構ですのでご発言いただければと思えますが、いかがでしょうか。

(中野委員)

最初に、口火を切らせていただきます。やはり今まで川西市というと、住宅開発のモデルとして非常に成功してきた都市だと思います。今後、どうそれを再生していくかというところではあると思うのですが、今まではどちらかということ、ハードを整備して発展してきたというところがあると思います。でも、ハード的なものは私が見させていた

だくと、かなり整備され、良好な住宅はもう既にあると、ただそこに住んでおられる方が高齢化してしまっているというようなところもあって、インフラとしては非常に恵まれている状況だと、区画もかなり大きい立派な住宅がありますので、そういう意味ではインフラとしては十分なところがあるのかなと。ただ、そこでいかに新しい生き方、ライフスタイルを提案できるかと。あるいは多様なライフスタイルをどう受け入れられるかというようなソフト面の基盤整備ってところが、今後は他の地域と、差別化するところかなと。昔はある程度モデル的なものにみんな憧れて、流行れば、みんながそれをやるみたいなおところがあったのですが、今は価値観も非常に多様化していますので、いろんな価値観に対応できるまち、あるいはライフスタイルを受け入れられるだけのキャパがあるまちということで、そういうハード面だけじゃなくて、ソフト面をいかに充実させていくかということが大事かなと思います。だからそういう面では、制度とか、いろんな決まりごととか、そういうものに対していかに柔軟に対応していくか、あるいは川西市は南北に長いまちで下の方は工場とか、あるいは商業施設が充実している、北の方に行けば、黒川も含めて自然豊かなところがあるということで、そういういろんなライフスタイルに対応できるような地域性をもったところだと思うので、そういうところもうまく利用していくというようなことが重要になってくるかなと、ざっぱく意見ですけども、まず口火を切らせていただきました。

(会長)

住宅インフラ、これをどういうふうこれから活用していくのか、また、本市が持っております様々な魅力というのを引き出していけるような新しいライフスタイルをどういうふうにしていけばいいのか、またそのためにも、南北に長い、タツノオトシゴに近い形をしているという話もありますが、本市の自然とそして住宅と、そして経済活動というのが、この比較的狭い地域に集まっているということのメリットをどんなふう活かしていくのか、このあたり、ぜひ委員のみなさま方からも積極的にご発言いただければと思います。

(上村委員)

はい、いくつか言いたいことが出てきたんですけども。今日の午前中は兵庫県の地域創生の会議に出ていたんですけども、私そこで、企画運営の会長やっているんですが、兵庫県は移住を進めているところがありまして、それで移住されてくる方っていうのは、基本的に結構不便なところに移住されるんですよ。なぜかという、自分で決められることが多いということですよ。多分、人間の幸福って自分で決められることが多ければ多いほど幸福なんです。というふうになんとも思うようになってきたんですね。そういうような地域であるっていうことがすごく大事かなと思ってですね、そのために一体何をすべきなのかっていうことが、重要かなと思っています。そこで行政がどこまでやるのか、民間がどこまでできるかっていうことなんですけど、全て行政で抱えることはできないので、やっぱり民間でかなりできることもあるので、そのために、民間と行政をどうやって組み合わせて使うのかというところがとても重要かなというように思います。なので、自分を表現できる場がどこまであるかっていうような地

域にさせていただきたいなと思うんです。それと、最後ですけど、川西市総合計画は行政の総合計画じゃなくて、市民の総合計画なんだということがとても重要だなと思っています。名前を変えたいくらいですね。City of Kawanishi ではなく、Citizen of Kawanishi なんてどうでしょうか。

(会長)

ありがとうございます。総合計画は、歴史的には実は行政計画というのがもともとの位置づけだったんですが、もうこの20年ぐらい全国どこもそんな話ではなくて、市民の計画でもあるし、地域で事業活動しておられる方の計画でもあるしというような本当の意味での総合性というのを、目指されるところが増えているのかなというふうに思っています。本市の計画をどうするかは、またこれから議論しなければなりません、このあたりもしっかり踏まえていきながら考えていければと思います。なお、移住の話で本当に1人1人の方がある種の自己決定ができる、そういう場であれば、たくさんの人に魅力的なそんな川西市ができる、そのときに行政だけじゃなくて、民間の力、市民の力、事業者の方の力、このあたりをどういうふうに上手に発揮していけるかも工夫のしどころかなと思いながら聞いていました。ありがとうございました。はい、続いて神谷委員どうぞ。

(神谷委員)

お二人の委員のお話を聞いていて、どこかをモデルにと、岡山県の総社市の片岡市長が障害者1,500人雇用って謳って、その障害雇用の繋がり、沖縄で何度か来ていただいたり、僕らも訪ねていたりして、交流を持っていく中で、市長と繋がってFacebookとかを見ていると、この前も住民の方が「子どもが生まれた」とって市長に挨拶に来てくれたと。別に何でもいいから報告に来てくれと。僕が、その赤ちゃんを抱っこさせてもらうのは、本当に僕の幸せだからとか、何か一つのトピックでそういった本当に市長が全面的に出ていく中で、その色がついたなというか、実際この障害者雇用でもたぶん全国的にも注目されて、先程のデンマークとかでもそうなんですけど、やっぱり僕は社会的弱者というかマイノリティーの方が住みやすいっていうのは全ての人にとって住みやすい社会になると思っていて。先程も選択できる自由とかで、沖縄をコロナが来る前は本当にインバウンドバブルが来ていてですね、来客数500万人を超えて、一時期ハワイを超えていたんですね、本当にすごいなかで、それでいてやっぱり移住してくる方も多い、ただ移住してくる方がどういう方かっていうと、本当にこの沖縄って最低賃金ワースト1位、2位をいつも争っているところでもあって、決して経済的には豊かではなく、子どもの貧困とかっていうのも、すごい負の連鎖とかも抱えていたりですね、離婚率ナンバーワンとか、いろんな形があるけども、みんな沖縄に求めてくるものっていうのはまたちょっと違ったものを求めてきたりとか。なので、多様性でどこまで多様であるべきなのかとか、どこまで色をつけるのかとか、そこら辺も話を聞きながらですね、この前、僕も仕事で広島県の福山市の中にある鞆の浦っていうところに人口約3,800人のところに行って、崖の上のポニョのモデルになったところで、福祉の仕事で呼ばれて行ったんですけども、そこもまた魅力的なまちで、若い方がどんどん

移住してきているんですよね。おっしゃったように魅力のあるところに人は集まってきているなという。なので、そういう成功事例というか、いろんな地域のモデルとかで、僕は都市計画とかね、多分地形とか気候とか、多分そこにあったとかっていうのも、またそういうみなさん専門家もいらっしゃると思うので、何かいろんなモデルをみんなで見ているうちに、それぞれの専門の方々にここに合う近しきモデルとか、そういうのが目指すところとまた一致していったらとか。

あと、僕、行政の方が参加してくれる集まりで、委員の人が何か言ったときに、何か議会答弁のように、行政の人は答えないといけないという空気があんまり好きじゃなくて、せっかく行政の方も参加していただいているので、すぐ口火を切っていただいて、何かみんなで対等に同じ意見が何か、それに対してこう、市長が答えないといけないというか、何か一緒に夢を描けるような、そんな集まりになったらいいなと思います。ありがとうございます。

(会長)

この場が、お互いにフラットにやりとりする中で、良い計画が出来上がっていく、そんな場になればいいなと改めて思いました。それでもやはり川西市のカラーをどう出すかというくらいは、みなさんでこれから工夫のしどころだと思いますのでまたいろいろと教えていただければと思います。その他いかがでしょうか。

(水野委員)

今までの方のお話をお伺いしていて、同じようなことかもしれないんですけども、私は住宅地が専門ですので、先程お話があったように、本当に川西市の基盤はもう整っていると。そういう意味で言うと、あのハードというのはもう非常に整ってきているような状況にあって、これからそれをいかに使いこなすか、住みこなすか、みたいなのところに来ているのかなというふうに思っています。やっぱりあのニュータウンがどんどん作られた時期というのは結構本当にあのちょっとステレオタイプな暮らし方というのがあって、ニュータウンに住んでいる人は電車に乗って大阪に行って、サラリーマンというような、全員が全員そうではないでしょうけども、大きな流れとしてはそういうような暮らし方があったんですけども、先程のお話にありますように北部の農業であったりとか南部の工業であったりとか、それだけじゃなくて実は住宅地の中にも仕事を作るとかですね。そういう意味でいうと、別にあの大阪に行くことを、否定は全然しないですけど、それだけではない暮らし方ですね。近隣でコンパクトに暮らして働くというような、何かそういったようなことができるようなことをやっぱり考えていかないといけないのかなというふうに思っています。

例えば今、ニュータウンといったときに、やっぱりどうしても今空き家が増えているよとかいう話があったとしても、やっぱり結構ですね、なかなかあの住む人をやっぱり選んでしまっているというようなところがあって、なかなかその今のその住宅地に若い一人暮らしの人が住宅を手に入れて住もうかと言っても、なかなか自分のスペックに合わなかったりするわけですね。そういったことでいくとだいたい何ていうか、そこに例えばニュータウンの話ばかりで申し訳ないんですけども、何か今そういうそのミ

ックスしていきたい、多様になったらいいと言いながらなかなかそれをやっぱり阻んでいるものがあるわけで、そういったことでいくと、例えば若い世代も気軽に住めるような住宅地は一体どういう形なんだろうとかですね、何かの根本のそのやっぱり今まで思い描いてきたところから一步踏み出して、何か都市像みたいなものを何か作っていかないといけないのかなと。何か新しい暮らしみたいなものが作っていったらいいんじゃないかなというふうに思っていたりします。

あともう一点だけちょっと申し上げたいのが、あのニュータウン再生といったときに、ニュータウンの中だけでは絶対できないんですよ。先程、民間も一緒にというような話もありましたけれども、外部の力も引き入れるといいますか、外部の人間もボランティアでやるんじゃなくて、ビジネスとして介入できるような仕組みを作るとかですね、何かそういったことで、そのあたりはもしかするとその介入っていうかそのマッチングみたいなところがいまの行政ができる役割だったりとかそういったところなのかなとか、そんなことを考えておりました。

私もちょっと勉強しながら次回以降参加させていただきたいなと思っております。

(会長)

ありがとうございます。そうですね、ニュータウンがオールドタウン化しているのをどうルネッサンス(復活)していくのか、その時に少し新しい社会、新しい文化にどういうふうにこのニュータウンというものをよりファッショナブルに変えていけるか、何か非常にチャレンジングで楽しみなところがあります。もちろんそのときに中だけでやろうとすると、おっしゃった通り、無理があろうかと思えます。むしろそこまで言ってしまうと別に川西市、あるいは一団地でできることというのを見極めながら、それ以外の力、外の力をどんなふうに上手に引っ張り込んでくるかというのこれから総合計画の中でぜひ考えていけばいいかな、というふうに思いながら聞いていました。

(会長)

伊藤委員、お願いいたします。

(伊藤委員)

失礼いたします。私の方からは先程の当事者の声を聞くっていうところと絡めましてその子どもの声をどう聞いていくか、どう計画に活かしていくかっていうところを、ぜひみなさんと一緒に考えていけたらと思うんです。当事者の声を聞くということと持続可能性といいますかね。今川西市の子どもとして川西市で暮らしている子どもたちがここで育ってよかったなとか、ここでいろんなことに参加できてよかったなっていう思いを持って育つことによって、やっぱりその大人になったときに、やっぱり川西市で暮らしたいとか、川西市をもっと良くしたいっていう大人に育つ、そしてどんどん川西市が良くなっていくみたいな、世代を超えた持続可能性みたいなところでやはり子どもが市民としてどう参画していくかっていう、子どもが市民性を獲得するとか、シティズンシップみたいなものを獲得していくような、仕掛けをどうやって作っていくかみたいなのをまた一緒に考えていけたら嬉しいなというふうに思います。

(会長)

ありがとうございました。本当に子どもたちが川西市で育っていく中で、ここが自分のまち、そしてひょっとすると学校とか勤め先で離れるかもしれないけど、でもいつかはここに必ず帰ってくると思ってくださると嬉しいなというふうに僕も思いました。そういうシビックプライドなんていう言い方もありますが、そうした自分が育ったまちに対する誇りのようなものをみんなが持てるようなそんな計画ができるといいなと改めて思いました。ありがとうございました。その他いかがでしょうか。

(中野委員)

そういう意味でいうと、おもしろいなと、かつてから思っているのは、祭りの盛んなところっていうのは、子どもさん帰ってきはるんですよね。川西市のかつてニュータウンと言われたところは、子どもさんが一旦出ていってしまっただけで帰ってきてなくて、高齢化が進んでいるというところがあるので、その別に祭りを作りましょうと言っているんじゃないですけども、やはり地域との繋がりというものをいかに作って行くか、それによってその地域に愛着を持って住んでいただく、あるいは大人になってこういうことをみんながやっていたことを、自分も大人になってそこに参加したいとか、そういう風な、地域との繋がりを持てるような、今までのニュータウンっていうと、そういうところがやはりものすごく希薄なのでどちらかというといふと今後は、そういう何か地域との繋がりというようなものをいかに作っていくかということ、そこに住み続けたいというような気持ちをいかに持ってもらえるかということが非常に大事なかなと。そうなるかと、逆に言うと核家族じゃなくて、3世代同居とか、そういうふうな家庭が増えてきたり、コミュニティが熱くなったりとかいうことで、まちとしては非常に厚みあるようなまちになってくるかなというふうに思います。これまでのみなさんのご意見を聞いて思った次第です。

(会長)

はい、ありがとうございました。本当に、地域の中での繋がりそれも学校とか家庭とかというような縦横だけではなくて、もうちょっと斜めな繋がりのようなものも含めて、それも触発していくような地域のあり方、お祭りということもありましたけど、こんなのもひょっとするとこれから次の世代、そして今の世代が元気であり続けるためにも必要かもしれないと改めて思いながら聞いていました。ありがとうございました。

いかがでしょうか、片山委員、渋谷委員、山本委員は市民でもいらっしゃいますけれども、何かご意見はございますか。

(渋谷委員)

私は育ちも仕事も川西市でさせていただいていまして、三十数年になるんですけども、やっぱりこの住んでいる中で、この川西市というところで、これ別にディスるとかそういうのは何も無いんですけども、本当に何も無いけれども何でもあるまちだねと、これ結構みなさん、あの僕たちの周りでもありまして、これはですね、やはり住もうと思うと、もう何でもあるようなまちなんですけれども、やはりその次のわくわく

感であったりとか、このどきどき感こういうところがですね、もう少しあのあれはもっともっと楽しいまちづくりになるのではないかなというような想いもございます。これは一市民の意見でございます。

(会長)

ありがとうございます。何でもある、何もかもあるわけじゃないけど、でもなんでもあるというのは、とっても大事なところかと思えます。一つだけ思い出したのが、島根県の海士町というところが、まちづくりで有名なんですけど、ないものはないというのが標語になっています。二つの意味があって我がまちには何でも揃っていますということ、それからもう一つは、東京や大阪にある、そんなものはありませんよという、そういう割り切り。ここは今の渋谷委員からおっしゃっていただいた川西市というのを考えていくときの大事なポイントかなというふうに改めて聞いていました。はい、神谷委員、どうぞ。

(神谷委員)

いま、私はもっと具体的に市民の方のわくわくが知りたくてですね。僕はまだ来て一年半ぐらいしかなくて、もう何でも新鮮なんですけれども、先程、お祭りとかっていう一つの例を出していただいたんですけども、例えばわくわくってどんななんだろうっていうのをちょっと聞いてみたいなと思っています。

(片山委員)

私のわくわくが市民のみなさんのわくわくとずれているんじゃないかっていう怖さもちょうとあるんですけれども、感覚的になんですけれども、私が普段接しています30代から40代の子育て世代のお母さんたちは、もともと出身で戻ってきた方が、結構多いんですね。先程中野さんがおっしゃられた高齢化が進んでいるのは戻ってくる方が少ないということもあるということなんですけど、ちょっと私もデータとかこの数字でこうなんだっていうのが言えないので、あれなんですけれども本当に感覚的にはこれほど戻り率 U ターン率の高いところ知らないなんていうぐらい本当に多いんです。それはやっぱり川西市が2世帯同居、近居の補助を出したこともありますし、何よりみなさんおっしゃられるのが、先程渋谷委員がおっしゃられた、川西市がなにか知らんけど好き。何もないけどそこが好き。ていうところをみなさん本当におっしゃられますし、私も住んでいて、年々それが本当に身にしみてそうだなっていうところがあります。やっぱりみなさん、ここから高校、大学って通うにも例えば一人暮らしするっていう地域はすごく多いんですけれども、川西市は結構そこから通い、就職してもそこから通い、結婚するまで家にいるという若者の、家から通う率も非常に高いように思います。もちろん出られている方もおられると思うんですが。そういった意味で実は若者が多いけれども昼間はないという、そんなまちなのかな。そして週末、ちょっと車を北に走らせると、結構田舎があったり、ちょっと南に行くと、十分な買い物ができる場所があったり立地の面はすごくみなさんおっしゃられている。子育て世帯にはものすごく住み心地の良い日常のわくわくな気がします。

(会長)

何だかとっても、心地よく住んでいるのがわくわくにそのまま繋がっている感じがしました。渋谷さんはいかがですか。

(渋谷委員)

私のわくわくといいますと、私自身もあの仕事が結構好きで、結構年から年中仕事をしているんですけども、今現在子どもが2人いまして、その子どもとも遊ぶ時間についても、すごく好きなんです。この時間をどういうふうに有効活用できるかと、どういうふうにするともっともっと繋がりを持てるかっていうところで先程おっしゃったその企画であったりとか、そういうものを通常の非日常、これをもっと取り入れていくと、僕の中ではわくわくが増えるんじゃないかなと思っております。

(会長)

ありがとうございました。多分これまでの川西市にもある種そういうハレとケ(日常と非日常)みたいなものがちゃんとあって、わくわくする瞬間というのをこれまでたくさん経験されているのかなと思いながら聞いていたのですが、山本委員はいかがでしょう。

(山本委員)

そうですね。人がすごく元気っていうのもあるんですけども、やっぱり先程もありましたように、縦長の川西市っていうのもありまして、自然が豊かなのは、すごく子育てしていてもいい場所だなんていうふうに思います。一方で、北の方が、やっぱり山に近いので、北の方に住んでいる方が、子育てが一段落するとちょっと南の川西能勢口付近に引っ越すというなんかちょっと市内で、あの川西市は好きだけどやっぱり利便性のことを考えると、ちょっとずつ年齢とともに南に移住するっていう人も何人か知っています。私も北の北陵の方にいると車が欠かせないような感じで、あのSDGsと言いながら結構排気ガス出しているなって思いながら過ごしているんですけど。ちょっとね、足を伸ばすと自然があるっていう、すごいいいところがわくわくの1点ですね。

あとは、元気な人が多いっていう一方で、なんていうんですかね、例えば子育て世代とかシニアの方とかあとはそのさっきのお祭りの話もそうなんですけど、音灯りとかですね、結構盛んに活動されている元気な方がすごく多いっていう一方で、例えば子どもがいない夫婦だけの家庭ですとか、あとは单身の方ですとかそういった方にちょっとお話を聞いたときに、なんとなくそれは川西市だけじゃないかもしれないんですけど、ちょっと例えば、施策とか何かって言ったときに、どうしても子育て世代とかシニアっていうのが注目されて、何か自分たちがちょっと取り残されているような気がするっていう声はちょっと聞いたりもします。なので、ちょっとその中小企業診断士のSDGsを研究しているメンバーで一度アンケートを取ったことがあるんですけど、どういったところに日々の幸せを感じるかっていうのをちょっと調査したときにですね、やっぱり何か、子どもがいる、いないとかに関わらず、何か仕事とか以外に活躍できる場とか、ボランティアする場とか、何か人に役に立てる場があるとすごく幸福度に繋がるっていう

結果が結構優位に出ました。なので、いろんな属性の人が活躍できる素地というのが川西市にあると思うので、そういったところでもっとこういろんな人を巻き込みながら、あのわくわくを広げていけたら、より計画にも盛り込んでいけたらいいなというふうに思っております。以上です。

(会長)

ありがとうございました。本当に川西市は元気な人が多いんですが、同時に豊かな自然がそうした人の気持ちを支えている。でもそれだけじゃなくて、いろんな趣味の活動も活発で、その上になお、みんながもっと活躍の場があるともっと幸せになれるよねというのでその通りだなんて改めて思いながら聞いていました。本当に最初に上村委員からもありましたけど、自分たちが活躍して、自分で作っていけるようなそんなまちなになるとずいぶん違うんだらうなという風なそんな印象を持って話を聞いておりました。こちらだけで一方的に喋っていましたが、市長さんからも何かご意見はございませんか。

(市長)

問題提起というか、おそらく私が今何を悩んでいるかということを出させていただいて、そこにいろんなお答え、こういう考え方があるんじゃないかということが一つ大きなこの場の意味かなと思うんですが、まず多様性というところを価値観として申し上げました。一方で今まで我々は私も25歳のときから市議をしております。ちょうど20年ぐらいになるんですがもう行革や財政健全化ばかりを市議、県議の時はずっと言い続けていて、そのときに何を言っていたかという選択と集中だと、これだけ選択と集中だと言って市長になった人間が市長になった瞬間に多様性だと言い出したということで、もちろん施策の上での選択と集中というのはあるのですが、そこ多様性ということのその両立というか、本質的にそう相反するものなのか、やっぱりでもそれは持続可能性というキーワードの中で一定必要になってくるものなのか、そういったことが非常に今私の中で悩んでいる、自己矛盾を起こしているんじゃないかなというところなんです。まちづくりでいうと、やはりこれも多様性との観点でいいますと、いわゆる国交省はコンパクトシティにということで縮小というのか、できるだけ機能を充実させると。これは現実的な路線としてそうではあるんですが、本当にこの多様性とかといったところで、またこれは持続可能性と掛け合わせたときにまちの形が今まで通りこの大きさでの都市の広さ、まちのインフラの大きさというものでいいのか、それは一定、あの選択と集中という言葉になると少し排除感がありますが、そうではない別のコンセプトの中でまちを圧縮していくのか、濃縮していくのか、わかりませんが、いやむしろそういうことをしなくても、ICTなんかの力で、今のこの点に在しているものを、違う形で結びつける方がいいんじゃないかとかという十年後がどんな社会になっているのかということが、私もITにそんなに詳しいわけではありませんので、そういったところは都市の考え方の中からも、少し私自身が今悩んでいるところです。あとは先程も独身の子どもを持たない方からの、施策は子どもとか高齢者中心で、ある種、排除されているようなところ、そこも私自身も悩んでいるところでありまして、今回も私はコロナに直面をして、これは職員にも議会でもいろんなところで申し上げているんですが、もうお金の使い方

の重点施策の1位は子どもだと言っています。これなぜかという、こんなに借金をして我々施策を打っているのに、二十年後、三十年後、子どもが働くときに、私も子どもも小学生6年生の1年生ですが、三十年後に働いていて、その借金の明細書を見たら、せめて自分たちのために作った教育、学資ローンであって欲しいだろうと、それが別にその高齢者のための施策が悪いということではないですが、やはりそこに対して負担を将来世代に求めているのであれば、せめて今を生きる我々として今の子どもたちの世代に使っていくというのが、私達の今の世代の責任ではないかなということで重点化をするんですが、重点化をするということは、当然そこに入らない、重点化されない方がいらっちゃったときに、これがやはり排除として見られるのか、ただ、まちとしてのコンセプトであったり、想いを伝えようと思うと、やっぱり一定の重点化が必要になってくる。ここのバランスというか、何かそれをどう打ち出していくのかということは正直悩んでいます。

あと神谷さんからもありましたように、私も総社市はですね、県会議員時代に実は仲間たちと視察に行っていました、そういうのが念頭にありましたので、川西市としても障害者雇用・就労推進本部を立ち上げて目標をつけてがんばろうとしているんですが、ちょっと今このコロナ禍でいきなり出だしがしんどくなってきたというところがあります。で、理念としてのインクルーシブ、私はやっぱり理念としてしっかりとそうあるべきだと。ただ、じゃあ現実として当事者の方たちが何を求めているかということ、あるべき論としてのインクルーシブと、当事者として現実としてやっぱり苦しんでいるところに、そのインクルーシブではなくやっぱりスペシャルなやっぱり対応がしっかりと求められている部分、ここの理念と現実と社会の中でどう作っていくのかということは、これは本当にめちゃくちゃ悩んでいます。障害者の方も例えばクラスでいけば、ぜひ一緒にやっていくそういう体制を学校の中でも作っていききたい、でも保護者の方にいうと、特別支援のようなところで特別な配慮をいただきながら学習を続けていく、これはやっぱり一方で保護者の想いとしてもあります。これをどうやってあるべき社会の形に導いていくのか、これは少し時間がかかるかもしれませんが、そんなところも悩んでいます。先程ありましたように、産業の面なんかでまさにニュータウンの中でも、お店ができたらいいなというのとかも、私もすごく感じていまして、ただ少し希望も今出てきているのが、そこに三角広場という広場があってキッチンカーでシェアをしましようというような取り組みの中から毎週日曜日に出されている方が、先週行ったら、車の色変わっていたので、どうしたんですかって声をかけたら、笑顔で買っちゃいましたって答えてくださって。なんか道の駅でも始めたいと思いますみたいな出来事がありまして、こういう大きくいきなり起業をするというよりも、小さな企業当事者が増えてくるとまちって豊かなとは思っているんですが、なかなか産業に行政が口出すとうまくいった試しはないんじゃないかということで産業を育てていって、行政との関わりっていうのが難しいなということを経験家ですので、これは市長の手柄ですか、行政の手柄ですって言いたいので、そういうところに後から補助金とか出して失敗するというのが、あちこちで失敗している事例ですので、ぐっと我慢しながら支えていく方法っていうのをどうしたらいいんだろうというのは、産業分野での議論にもなるかもしれませんが、非常に悩んでいます。あとは当事者のお声を聞く方法というのは、いろんな形で我々と

しても聞いていきたいと思っておりますが、やはり最初、伊藤委員からあったと思うんですが、やはり声を出せない方の声をどういうふうに拾っていくのかと、実際その3年前に作った総合戦略のときにも、やはりそこに出てきていただける方は、前向きでまちが大好きでこんなことをやりたいあんなことをやりたいそういった方たちがたくさん集まっていますので、どうしても福祉の分野、障害の分野、例えば1人親、貧困家庭、こういったところは、計画の中にどうしても市民参画の中で盛り込まれにくい、やはりその声が出せないところを、でも、行政だけが考える施策では、当事者のみなさんに本当に必要なものにはならないだろうというのが、いつもこう予算協議をしていてこれは本当に誰が喜ぶんだと、当事者の人は本当に求めるのかということ、でも当事者の方にはなかなかその本当のところが届きにくい、ここのジレンマを感じながらやっていますので、こんな風に聞いたらどうだとか、みなさん特に研究者の方、学識経験者の方はいろんな海外の事例なんかもご存知だと思いますので、ぜひアドバイスをいただきたいと思っております。

なお三十年間余り変わっていないように見える川西市のICT化でございますが、なんせスコットランドと繋がっている会議が、私が市長になってからできているということで。ただ、おっしゃっていただいた通り、本当私市長に就任して最初に驚いたのはですね、1日休むともう何か机の上が判子待ちで詰まっているという、もう高く積んで見えないということで、至急、大至急と何か判子が押してあって、それはどっかで止まっていたとか、隠れていましたとかっていう、そういうものもいっぱいあったのが、やっぱり実際に使ってみるとやっぱり今電子決裁を、もうほぼ100%みんな電子決裁になっていますが、やってみればもうこんなにいいものはないというのが、今もう本当にあの職員の感想だと思います。一方でやはりまだ使えない住民の方がいて、おそらく10年ぐらいすると、ファミコン世代が60代になってくると、もう大丈夫なんだろうと思うんですが、やはりそこまでのソフトランディングじゃないんですけど、方向としてはICTをいきながら、そこに届く方法というのが同時にないとか何か排除されるという方がどうしても出てくるんじゃないかな。ということを感じながら、私の性格としてはもう、もっとアクセル踏みたいということを感じながらも、本当に今必要だと思っているものが、もしかしたら専門家のみなさんからすると、そんなのはもう陳腐な話で、5年後には全然違う形になっているから、そっちを目指す方がいいということもあろうかと思っております。そんないろんな今私の悩みを申し上げましたので、散らかすだけ散らしました。ですので、お答えの方はですね、時間をかけて一つ一つ形にさせていただきたいと思っております。どうかよろしくお願いいたします。

(会長)

ありがとうございました。丁寧に議論をフォローしていただいてありがとうございます。本当に、市長さんおっしゃった通り、行政の役割としてどうしても選択と集中というのを、資源制約の中でやってかないといけない。もう一方では本当に市民のための行政であろうとすれば、多様性というのを最大限入れつつ、ある意味ではインクルーシブな社会を作らないといけない。でもそれをやっていけばやっていくほど、ますますエクスクルージョンというか、排除というのがいろんなところでうまれてくる。これは、イ

ンクルージョンをやればやるほど、ダークサイドが出てくるという生の、当たり前の話ではあるのです。もう一方ではそこをどこまで丁寧に対応し続けるかということかなと改めて思いながら、そのためにもやはり最後にいただいたように、これまでの新たな技術革新そして今後期待される様々な技術といったようなものも積極的に取り入れながらそうした問題というのを丁寧に潰していくということが、ひょっとすると大事かもしれません。勝手に喋っておりますが、市長さんの散らかしたというお話でしたが結構率直に悩みをおっしゃっていただきました。もし何かこれだけは言っておきたいということがあれば、各委員からご意見をお願いします。

(松浦委員)

専門の ICT というわけではないんですけども、いろんな自治体のご支援をさせていただいてですね、特に北摂と阪神間の自治体のご支援が多いんですけども、総合計画を見ると、だいたいほぼ同じなんです。梅田に電車 1 本で行けて、住宅が整っていて、子どもを大事にして教育、文教都市であるとかですね、マンションが整備されてスーパーも多いとかですね、福祉も充実していると。ですので、おそらく川西市も阪神間の一つとして住宅都市というのも、例えば尼崎市とか西宮市も多少言葉は違うけども、同じようなところを目指しているんじゃないかと思ってまして。ですので、この総合計画にどこまで相対的な視点を入れるかっていうのが、結構重要じゃないかなと。極論言うと、明石市とか尼崎市とか西宮市に比べてこんなところすごいですと、ここを目指しますと、逆にこういうところは西宮市に劣っていますよと。もちろん書けないんですけども、そういうような議論が必要なんじゃないかなと。だから相対性という意味と、あと尖りというんですかね、川西市はここが飛びぬけてすごいです、その代わりここは財政的な面で諦めますというようなこともやっぱりある程度柔らかい表現で伝えていかないと、市民の方にもばれると思うんです。例えば児童の医療費助成とかは、小学生までじゃなくて中学生までやりますってどっかがやると必ずみんな真似するんですね。それはアピールにならないので、やっぱりその相対性っていうのは重要かなと思ってまして。ただ私が二、三十年見ている限り、他市に比べてこんなことがすごいですみたいなことはさすがに総合計画で書けなくて、市長も公約で、他市をけなして自分アピールすることは当然できないと思っていますのでそういう視点を持ちながら議論できたら嬉しいなと思います。

(会長)

ありがとうございました。これからの計画作り、どこまでエッジを立てられるかっていうのがポイントかもしれませんが、ただ、なかなか立てにくい総合計画という元々の性質があります。でも、そこはみんな目指せるかと思っております。

(上村委員)

今日わかったんですけど、この場には人を巻き込んで活動をしておられる地域人材がたくさんおられるなって印象があってですね、それがまさに川西市の魅力なのかなと思っています。こういう方って別に行政の支援なくても、勝手に活動されます。行政

がやるべきことは、その人たちをうまくプラットフォームに乗せることです。そういうことをやるのがすごく大事なのと、そもそも ICT 化するのもすごく大事ですよ。ICT の力っていうのは、人と人が繋がるプラットフォームを作る話なのでとても大事だと思います。なので、そういうソフトパワーをどうやって活かすかというのが一種その川西市の新しいモデルになるのかなというのが今日ちょっとわかったことです。そうするとですね、別にすぐ行政が出ていくわけじゃなくて、民間の力でどういう川西市を描くのか、先程私は自己決定することがすごく大事なんだってことを言ったんですけど、たぶん今ここにおられる方って結構自己決定されている方が多くて、非常に幸福度に満ち溢れている方が多いですよ。こういう方達をどうやって増やすのかというところが、一種市の目標になってくるし、あと子どもたちもその人達を見たらこういうことができるんだというチャンスがあるんだということが、何かわかればいいのかなと思いますし、子どもたちはどんどん失敗させて、それが経験なんだということを何かメッセージとして与えていくのが、何か地域としてはすごくいいかなというふうに思います。私、地域創生の仕事でいろんな兵庫県内のすごく不便なところでも結構人が入ってくることを見ているんですけども、これ全然私の専門じゃなく、経験として見ているんですが、そういう場所ってその地域の受け入れの許容度がすごいんです。おじいちゃんおばあちゃんが多いんですけども「若い子に任せてるんや」と言うんですよ。それができない地域は廃れていきます。地域っていうのは受け入れ側の体制もすごく大事で、ただ単に人が入ってくるだけじゃ駄目なんですよ。だからよそ者の若者に任せられるぐらいの度量が地域にあるのかどうかっていうのが今後の地域を左右すると思います。

(会長)

ありがとうございます。大事なヒントをいただいてしまいました。ソフトパワー、市民の力をどう生かしていけるか、そして市民の方々がそういう気持ちになってまちを盛り立てていくそんな計画というのを私達が作れるかどうか改めて問われていることのようなのです。ちょっと時間も押して参りましたが、せっかくの機会です。もし、各委員から何かあればお願いします。はい、中野委員お願いします。

(中野委員)

高齢者のことですけども、高齢者っていうひとくくりにして、費用がかかるとか、負のイメージにどうしてもなってしまうんだけど、私は考え方によっては、高齢者っていうのは非常に財産であると思っています。それをいかにうまく活用できるか、あるいはその人たちにそういう場を与えられるかっていうところだと思います。ですから、今はあまりそういうステージってないですけども、そういうところをうまく作っていけば逆に若い人を取り入れることにもなり活性化するっていう、そういう面も当然あり、高齢者が生き生きとして活躍できる場っていうのも、今現状を考えたときに、アプローチする一つの手立てなんじゃないかなというふうに、ちょっと今、みなさんの意見を聞いていて思いました。(会長)

ありがとうございました。本当に高齢化する中でも、実は今国の方も人生100年時代とかという言い方をしています。本当に100年というのを全うするようなそういう

社会になっていったときに、むしろ本当に社会の中でずっと活躍し続けていただかないと、いや、そんなしんどいことは嫌だという人も結構いるかもしれませんが、でもそういうチャンスがあるということですし、そしてその人たちの活躍の場というのを一緒に作っていけるそんな社会になるともっともっと豊かになるかなという風に改めて思いながら聞いていました。そのほか、いかがでしょうか。どうぞ、神谷委員、お願いします。

(神谷委員)

みなさんの話を聞いていて、いろんな妄想が膨らんでいます。ちょうど高齢者の方の話が出ましたが、デンマークでは高齢者施策を作るときに、まず自治会の高齢者が集まって代表者を決めて、その次は自治会のある市町村の集まりに出て意見をまとめて、代表者を決めて、次はそれを県単位で、最終的に国でとやっていって、高齢者たちが自分たちで施策の三本柱を作っていたんですね。いま、なぜこんな話をしているかっていうと、例えばいろんな子ども、母子家庭、普通の若者などのいろんな人たちが、本当に自らでいろんな場所を作って、他の人たちを巻き込んで多分同じように活躍されていて、そういう人達って勝手にやりますよねっていう先程のプラットフォームの話だったり。ICTも、いまグラスゴーから繋がって会議もやれる時代のなかで、自己効力感というか自分がやれそうだ、いけるっていうときには何かの場で自分が認められたり、評価されたりとか、だから、いろんな立場の人たちがいろんな場で発信をしたり協議をしたり、意見を言っていたりする中で、それこそ子どもたちや高齢者の方がそこで何かを討論をしたりとか、みんながそのプラットフォームで、その場がそれぞれのステージで活躍できたらと思います。

1年半ぐらい前は、テレビ会議が当たり前になるとは思ってなかったですが、もうそういう時代になっているので、そういう何か具体的な施策とか何かではなくて、行政が何でも用意するのではなくて、民間や住民が主役になれるプラットフォームを作っていくというのが、行政の役割なのかなと、今話をお聞きして思いました。既にそういう方々はおられると思うので、そういう方々が出てこられるプラットフォームづくりなのかなっていうのを聞いていて、すごい妄想が広がっていました。

(会長)

ありがとうございます。いよいよ計画の中に盛り込まないといけないことがどんどん出てきました。ある意味では、そういう市民のみなさん方が闊達に自由に議論をする対話の場、そうした場からいろんな新しい活動が生まれてくる、そういう中から、公共的な行政の活動も生まれてくるそんな理想の姿というのをどう実現していくのかというのも多分この計画に課された課題かなというふうに改めて思いながら聞いていました。うまいことプラットフォームができたらいいんですけど、また上村委員からも知恵をいただきながら、やりたいと思います。すいません、だいぶ時間が詰まってまいりましたが、ぜひこの機会ですので、何かございますか。

(山本委員)

一言だけよろしいですか。先程みなさんのご意見で、やっぱりプラットフォームっていうのは大事だと思ってます。あとですね市長が、おっしゃられたその選択と集中と多様性のトレードオフみたいなところなんですけど、何かまだ答えではないんですけど、多分、今、例えばリモートワークとかが増えてって、働いているお父さんなど、いままでいなかった属性の人たちが家にいるとか、いままさに地域に巻き込みやすいチャンスだなんていうふうに思っています、その例えば、選択と集中って言ったときはやっぱりその子育て世代だったり困っている人のところに資源を投入しないといけないっていうのがあるなと思うんですけど、その多様性とか包括って言ったときに、そういう人たちをなんていうんですかね、保護する対象じゃなくて、その人たちに手伝ってもらってというか、引っ張り上げてその人たちと一緒に困っている人たちを巻き込んでいったりとかその当事者にするっていうのも包括っていうところに入るのかなと思ったりしています。そういうプラットフォームっていうのが、あればいいなっていうのと、すいません私事であれなんですけど、前回ですね、9月だったかな、あのオンライン公民館というのをちょっと試しに1回やったんですけど、何かそういう普段はなかなか声を発しにくい人に意見を聞いたりする場をちょっと作りたいなと思ってやったんですけどそうなるそうですねオンライン、先程あったようにその高齢者とか、例えばオンラインに精通してない人はちょっと入りにくいとか何かをするとそこにやっぱりちょっと障壁があったりとかするので、どれが一番良い方法かっていうのもないんですけども、いろんな方法を市民レベルでちょっとなんていうんですか、パッチワークみたいな感じで、いろんなものを取り入れながら連携っていうのをしていけたらいいかなというふうに思いました。以上です。

(会長)

ありがとうございました。本当にケアの世界でもよく言われている通り、意見をする側、される側ではなくて、それぞれが主体的に自立的に活動をしていくということ自体が社会全体のケアになっていくという意見がありました。声が出せない人達というのは確かにいろんな場面が出てきますけれど、もう一方では、それをそれぞれの主体性のもとで何か別のところで別の形で、そういう声の出し方っていうのを工夫していくということもまた私達の社会が目指さなければならない世界かなと改めて思いながら聞いておりました。ありがとうございました。その他、いかがでしょうか。はい、伊藤委員どうぞ。

(伊藤委員)

ありがとうございます。私は自分の専門が子ども児童福祉なので、どうしても子どもにフォーカス当てた発言が多くなってしまいうんですけれども、先程そういった子どもに焦点をあてて政策を作っていくとか計画を立てるっていうところにみんなが賛成しやすい一方で、子どもがいらっやらない家庭とか個人の方がちょっと疎外感を感じるっていうようなことがありました。上村委員の前半のご発言の中で価値とビジョンの共有ってこともありましたけど、何のために子どもに焦点を当てるのかっていう価値の共有

であったり、目的とか目標の共有であったりっていったところをいかに含んで、子どもがいる人さえよければいいとか、自分さえよければいいという社会で、幸せなまちってというのはやっぱりあり得ないと思いますので、子どもがいる人だけが当事者ではない、障害のある人だけが当事者ではないということで、いかに当事者性を育てていくかっていうところを理念としてどうやって計画の中に入れ込んでいけるかっていうようなことも、ちょっと考えたりしていました。以上です。

(会長)

ありがとうございました。当事者性という言い方で、一番大切な市民の姿というのを言っていたのかなというふうに思っています。大変恐縮ですがまた次回以降に喋っていただくということで、今日のところは申し訳ありませんけれども、意見交換というのはこのあたりにさせていただきたいと思います。

もう一つ議題が残っておりまして、次回以降どうなるのかということを含めまして第6次総合計画の策定スケジュール(案)をいただいています。事務局の方からご説明よろしく願いいたします。

(5) 第6次総合計画の策定スケジュール(案)について

事務局説明

(会長)

ありがとうございました。ただいま、今年度あと第2回、第3回で、現在の計画の検証そして今後、次年度以降本格化する策定方針のご議論をいただいて、今年度のまとめということです。今年度は残り時間もあまりありませんが、この間に次年度以降の本格的な検討のための素材をみんなで揃えていくという、そんな作業になりそうですね。ここまでの進め方について何か今すぐに聞いておきたいということがありましたら、お願いいたします。

(神谷委員)

進め方に対する確認なんですけども、次回が第5次総合計画の検証で、今年度末には次年度以降のというところで、先程市長がおっしゃられていた選択と集中、多様性、コンパクトシティなのか、重点施策は子どもでいいのかとか、インクルージブはどうかとか、産業をどう伸ばしていくのかとか、どこまで誰の声を聞くのかとか、市長はこう感じておられる疑問だったりとか、ただ聞いていて、きつこうしたいっていうのはあるんだろうな、子どもを一番にしていきたいとか、やはり自由には責任、権利には義務。やはり川西市民は、市長を選ぶ、選択する権利がある中で、今の市長を選んだのであれば、やはりある程度自分はこういうのを大切にしたいんだ、こういうまちにしたいんだ、そのためにみんな力を貸してくれて僕は言うべきかな、で、それが先程のご自身の任期と合わせて、それが違っていたと言うだったらそこはちゃんと市民もじゃあ違う人を選ぶ。僕はみんなの意見を広く聞くっていうより、多分市長はもうご自身の中

である程度の想いはあると思いますので、次回のその過去の検証は過去の検証として、今後を話すときは先程市長もおっしゃっていた、こういうことが気になっている。こういうことがしたいっていうのを、教育とかまちづくりとか福祉とかそういうことではなくて、市長がこうしたいっていうのを少し箇条書きに出してもらえるといいなっていうのは思いました。

(会長)

ありがとうございました。どちらかという市長さんへの宿題みたいな話になりましたけど、ぜひそれをいただきますと、今年度次年度に向けてどんな特徴づけを私達考えていったらいいのかというのも見えてくるかと思えます。今日のお話少し肉付けしてでも結構ですので、よろしく願います。

はい、よろしいでしょうか。それでは、またもし何かスケジュール等につきましてご質問ございましたら事務局の方にお問い合わせいただければと思います。それでは、本日の議論について、私の役割は以上にさせていただきます、事務局の方に進行をお返しさせていただきます。

4. 閉会

(事務局)

新川会長ありがとうございました。第2回、第3回の日程につきましては後日メール等でご連絡を差し上げるようにいたします。

また、冒頭で申し上げましたように本日の審議内容につきまして、事務局の方で議事録を作成し、後日みなさまにご確認いただければと思います。それでは本日はどうもありがとうございました。